

菌学者, 経験値を上げる

星野保 八戸工業大学

5周年おめでとうございます!

3年前, この街に移った私は, 所属する大学の図書館長を通じて, 八戸ブックセンターの「ひと棚」として10冊の書籍の紹介と, 簡単な解説を依頼された。そこで『生物学はエンタメにもなる』と題して, 著者それぞれの主観を全開にした生物系野外調査(や, 延長線にある)書籍11冊を紹介した。ここに自書2冊をふち込んだこともあり, 後日「アカデミック・トーク」として, 私の本と研究内容を紹介するプレゼンが企画された。

私の菌的相棒であるガマノホタケの魅力的な性質を無用に熱く語り, サイン本を販売し, あまつさえ古書店売却後も追跡可能に! と目論んでいたが, 会場となる八戸ブックセンターには, さらなる試練が待ち受けていた。なんと! 私が紹介した「ひと棚」本たちが, 客席に向かって並んでいたのだ!!

司会を務めた八戸ブックセンターの森佳正氏は, 「ひと棚の本も並べておきました! これも紹介できるでしょう!」などと, こともなげに言うのだ(さまざまな書籍を販売する書店として, 妥当な判断だと思う)。私は, 経験値の高い研究者を装い, (驚きを隠しつつ, 心中「やってやろうじゃないか!」と決意し,) 軽うなずいた。

研究者は, 自らの専門とする分野について, 分かりやすく説明する訓練を受ける。このため一般の方々への自分の研究紹介は問題ない。さらに年配の研究者ならば, その経験は豊富だろう(そして私は, この時点でもう年配の部類に入っていた)。しかし, 生物学の幅広い分野を個性的な野外調査だけでまとめた書籍リストの場合, 内容は多岐に渡り, 明らかに私の手に余る。また, スライドを背に話すのは, 講演や講義で経験がある。しかし, これに加えて書籍を手にもる(イメージは通販?)となると, これまでなく, さらに11冊も紹介するなど, 初めてがいっぱいで, 不安で心が一杯だ……

発表に交えて, これらの本をどう紹介したかは, 実はよく覚えていない。緊張のあまり, 記憶が部分的に欠落しているのだ。個人的には手に汗どころか, 背中も汗かく展開だった。終わった後に話を聞くと, 少なくとも2/3以上の本は紹介したらしいので, ほめてあげたい(自己評価A+)。

この「アカデミック・トーク」は, 学位発表などを除き, 個人的に一二を争う忘れがたい発表回になった(前段と矛盾はあるが, そう思う)。森氏の無茶振りに応えて, これを(苦情なく)やり切った

ことに達成感を得たのだ。その結果が八戸に来てからの私を、さらに(よく分からないけど)成長させたのだ(と信じることにした)。

このように、さまざまな経験は、自らの成長につながるのだとしみじみ思う。今後も、このような無茶振りを私(を通じて本学の若手教員)に振って頂き、さらに伸びしろを広げたい(と管理職として考えている)。

飲みに行くたび、八戸ブックセンターの前を通ると、あの時の緊迫感を思い出す(帰りは酔っているので思い出さない >_<)。

星野保 tamotsu hoshino

八戸工業大学

アカデミック・トーク「すごいぜ！菌類 その多様な“生き方”」(2020)

公開講座「種差海岸の植生に萌える！ ～津波に負けない強さのヒミツ～」(2021)など

1964年東京都出身。名古屋大学大学院農学研究科を満期退学。産業技術総合研究所生命工学領域研究戦略部を経て、2019年より八戸工業大学工学部生命環境科学科教授。著書に『菌世界紀行』(岩波書店)、『菌は語る』(春秋社)、『すごいぜ！菌類』(筑摩書房)など。

